

# 水の 話

FujiClean NEWS

2023  
Autumn

no.201

[特集]

## どうする飲み水、 家康から今につながる東京水道

江戸上水の発展と近代水道への変遷

# どうする飲み水、 家康から今につながる 東京水道

## 江戸上水の発展と近代水道への変遷

長く続いた戦国の世に終止符を打ち、初代将軍として江戸幕府を開いた徳川家康。  
寒村だった土地を開拓し、人と物が集まる大都市をつくりあげていった過程の中でも、  
人々の飲み水を確保するための上水の整備は、今につながる大事業の一つだったと言えます。  
現在では、世界の都市でも有数の安全性と美味しさを誇る東京の水道。  
これが、江戸の時代からいかにして確立されていったのか、その変遷をたどります。

### DATA

2023年6月1日現在

東京都(人口14,090,347人 面積2,194平方キロメートル)

日本の首都である東京都は、特別区である23区と26市5町8村からなっています。日本列島のほぼ中央、関東地方の南部に位置し、総面積は2,194平方キロメートルと全国で3番目の小ささです。政治、経済、文化など、さまざまな分野において日本の中心であり、全国で最も多い約1,400万人が暮らす世界有数の大都市です。

上水小橋付近から眺める現在の玉川上水

## 徳川家康の江戸のまちづくりから始まった水道の歴史。

### 徳川家康による開府と江戸の水事情

私たちは暮らしの中で、水を飲み、モノを洗い、入浴をし、当たり前のように水を使用します。現在は、蛇口をひねるだけで簡単に水を手に入れることができますが、かつて水を使用することは、決して楽ではありませんでした。では、今のような水道のしくみは、どのように確立されてきたのでしょうか。

日本で最も多くの人々が暮らす首都・東京。1,300万人以上の人々の飲み水や暮らしを支える都市水道の歴史は、江戸時代にまで遡ります。江戸時代の水道は「上水」と呼ばれ、江戸幕府を開いた徳川家康が大きく関わっています。家康は元々、現在の岡崎(当時の三河国)で生まれ、三河・

遠江周辺を領国として支配していました。豊臣秀吉が、東の戦国大名・北条氏政らを討った後に、自分の地位を脅かす家康を関東へ封じ込めるために北条氏の領地である関東を与える形で、移封を命じたのです。しかし初めて入国した1590(天正18)年当時の江戸は、湾が食い込み、葦が生い茂る湿地帯が広がる寒村で、人が生活できる場所ではありませんでした。そこで家康は堀の開削や入江の埋め立て、河川改修などに乗り出す一方で、いち早く取り組んだのが飲み水の確保です。海が近く井戸を掘っても海水混じりの水が湧いてしまう江戸のまちで多くの人々が暮らすためには、飲料水が重要であることを見抜いていたようです。

■ 家康入城直後の江戸(上)と江戸湊埋立後の江戸(下)



[取材協力・写真提供・資料提供]

○ 東京都水道歴史館 ○ 東京都水道局

[参考資料]

- 江戸上水道の歴史 (伊藤好一 著/株式会社吉川弘文館 発行)
- 江戸→TOKYO なりたちの教科書 ~一冊でつかむ東京の都市形成史~ (岡本哲志 編/株式会社淡交社 発行)
- トコトコやさしい水道の本 第2版 (高堂彰二 著/日刊工業新聞社 発行)
- 江戸はスゴイ 世界一幸せな人びとの浮世ぐらし (堀口菜純 著/株式会社PHP研究所 発行)
- 東京都水道局 [Webサイト](https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pr/tamagawa/) https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pr/tamagawa/
- 東京の水道 [パンフレット](https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pamph/suido/) https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/kouhou/pamph/suido/



## 発展する江戸と上水の移り変わり

家康は、家臣であり幕府の菓子職人であった大久保藤五郎に命じて上水を計画させたとの逸話が残っています。具体的なことはわかっておらず真偽は定かではありませんが、1603(慶長8)年に家康が江戸幕府を開いてから3代将軍家光の時代に向け、城下町としての江戸のまちづくりとともに上水整備が進められ、1629(寛永6)年頃までに「神田上水」が完成しました。神田上水は、湧水が豊富な井の頭池を水源とする現神田川の水を、中流部に設けられた関口の大洗堰(現在の文京区関口)から分水して水戸藩邸(現在の後楽園一帯)まで開削路で導入、さらに神田川を懸樋で渡して神田~日本橋方面に供給していました。また、江戸の西南部には、赤坂の溜池を水源とする溜池上水の水が給水されていたこともわかっており、しばらくの間、江戸の暮らしを支えていたのが、神田上水と溜池上水です。当時の人々は、このように川や溜池などから引いた水を、木や石の管(木樋・石樋)に流してまちの所々にある「上水井戸」に溜め、それを汲み上げて日々の暮らしに使っていたのです(P.09参照)。

## 至難を乗り越え「玉川上水」の完成へ

1635(寛永12)年に徳川家光が参勤交代の制度を確立すると、江戸の人口増加に拍車がかかります。絶対的な水不足が予想され、江戸城下への上水供給は緊急課題となり、開削されたのが「玉川上水」です。玉川上水は、多摩

川の水を江戸に引き入れる壮大な計画で、この工事を請け負ったのが江戸の町人・庄右衛門・清右衛門の兄弟でした。途中二度の失敗や、予算がなく私財を売り払って工事を進めたなどの逸話も残っていますが、1653(承応2)年4月の着工から、開水路部分をわずか8カ月で完成させています。玉川上水は、羽村取水口から四谷大木戸まで約43キロメートルを、ポンプなどを使用しない土地のつくりを活かした自然流下方式で、標高差わずか約92メートルの緩やかな勾配に水を流しており、高い技術と知識がうかがえます。庄右衛門・清右衛門兄弟は、この功績によって玉川の姓を賜り、玉川上水の永代水役を命ぜられています。

## まちの広がりに伴う水源の拡大

玉川上水は江戸市中の飲み水だけでなく、沿岸の各村々へも分水が認められました。羽村で取水された水量の半分は、途中の村々で飲み水やかんがい用水、水車の動力などに利用され、水の乏しい武蔵野台地の開発に大きく貢献しています。また1657(明暦3)年に起こった明暦の大火によって江戸の町の大半が焼失したことをきっかけに、幕府は大幅な復興再開発を実施し、江戸の町はさらに周辺部へ拡大。この拡大した江戸周辺地域に給水するために、亀有上水、青山上水、三田上水、千川上水の4つの上水が相次いで開設されました。亀有上水は元荒川を水源とし、他の3上水はいずれも玉川上水を分水して、合計6系統の上水が江

戸の町を潤していましたが、8代将軍吉宗の時代になると、亀有・青山・三田・千川の4上水は廃止されてしまいます。しかし掘削技術の向上で掘井戸から清廉な水が得られるようになったこともあり、神田上水と玉川上水が江戸の人々の暮らしを支え続け、明治時代へとつながっていきました。

## 下水道も充実した清潔都市・江戸

家康の関東移封から始まった上水整備は、神田上水と玉川上水を合わせて総延長150キロメートルという、当時、世界最大級の上水が整い、江戸の発展に大きな影響を与えました。江戸のまちは、とてもインフラが整備された都市だったと言われており、上水だけでなく下水網も充実し、都市部の生活用水や雨水を堀や川へ排水して海に流す仕組みが、江戸時代初期には完成していたようです。長屋の流しから出された排水は、路地につくられた溝(どぶ)に流れ、道路につくられた下水に流されていました。当時は水質汚染につながる洗剤や化学物質がなく、し尿は汲み取り式にして下水には流さなかったため悪臭の心配もありません。長屋には共同便所があり、集めたし尿はたいへん貴重で、下肥代として大家の副収入になっていました。江戸の町には下肥問屋もあって、売買がなされていたとも言われています。また江戸の庶民は、上下水を維持するために、定期的に清掃なども行っていました。人口密度の高い江戸は、公衆衛生の意識の高い、清潔な都市だったようです。



- 現在の小石川後楽園(かつての水戸藩上屋敷)に残された神田上水路
- 1985年に水道橋から外堀通りをお茶の水へ上る道路の下から発見された神田上水の石樋。幅は下部内法120cm・上部内法150cm、深さは120cm~150cm(本郷給水所公苑 展示)
- 玉川上水と同時に建設された羽村取水堰は、全長380mのなびたしげきと固定堰で構成される世界的にも珍しい堰です
- 玉川上水の建設に大きな功績のあった「玉川兄弟」を称えるため、羽村取水堰付近に建てられた像
- 文京総合福祉センターの建設工事で発見された神田上水白堀跡
- 江戸時代、神田川に木製の樋を架けて水を通し、神田、日本橋方面に給水していた神田上水懸樋跡。これが現在の水道橋の地名の由来となっています

# 文明開化に伴う、上水から近代水道への転換。

## コレラの流行と近代水道創設への変換

明治維新を経て、江戸は「東京」という日本の首都となり、新たな歩みを始めました。文明開化により、鉄道の開通やガス灯など、東京の風景は変貌していきましたが、地下を流れる水道は依然として江戸時代の神田・玉川上水のままです。しかし、維新の混乱のため水道を所管する組織が転換したことで管理もおろそかになっていき、腐朽した木樋によって水質は悪化。1886(明治19)年にコレラの大流行もあり、衛生環境の悪化が問題視され始めました。また当時は火災が多く、自然流下式の上水では十分な消火が行えないことも問題となり、上水の改良と鉄管を使用して加圧給水する近代水道の建設が急務となっていきました。

1888(明治21)年、近代水道創設に向けた具体的な調査設計が開始されます。玉川上水路を利用して、多摩川の水を千駄ヶ谷村の浄水工場に導き、沈殿・ろ過を行った後に市内にポンプ圧送による給水が計画されました。東京市水道改良事務所の技師・中島鋭治によって再検討されると、

浄水場は淀橋に変更、代田橋と淀橋間を直線で結ぶ導水路の新設が決まり、1898(明治31)年に「淀橋浄水場」が誕生。同年12月1日から神田、日本橋方面に初めて近代水道が通水されたのです。

## 増え続ける水需要と度重なる拡張事業

近代水道は、最初の通水から順次区域を拡大し、当初計画していた施設能力を増強して1911(明治44)年にすべての工事を完了しました。さらに増加を続ける東京の水需要に対応するため、完成からわずか2年後の1913(大正2)年には、村山貯水池、境浄水場の建設を中心とする第一水道拡張事業が開始しています。1923(大正12)年の関東大震災後、都市化の進展に拍車がかかり、1932(昭和7)年に東京市は隣接5郡82町村を合併。当時、町営、町村組合経営の10水道は市営に統合され、民営3水道も順次買収し、東京水道の原型が整いました。

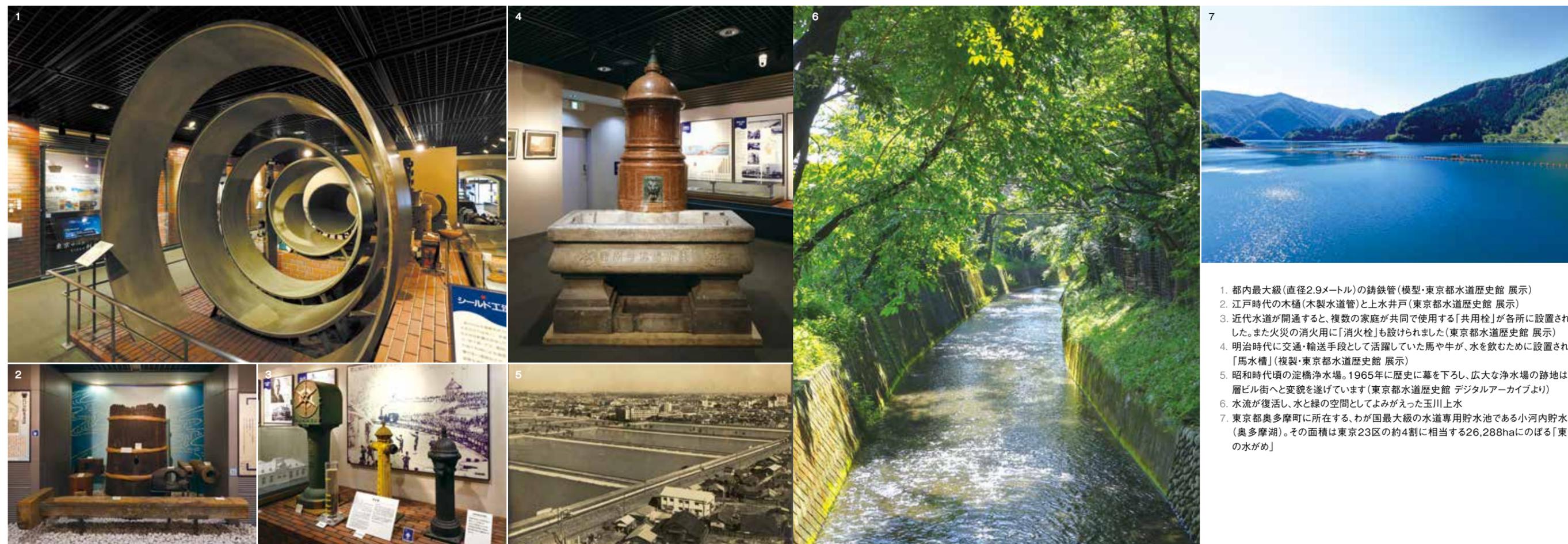
昭和に入ってから、相次いで拡張事業が計画・実施され

ましたが、日中戦争、太平洋戦争などの度重なる戦争によって中止を余儀なくされました。戦後も、戦災や台風被害、経済の混乱など極めて厳しい状況は続きましたが、水道の復興は着々と進められ、中断されていた拡張事業が再開。昭和30年代の高度経済成長期に入ると、人口増加や産業の急激な発展で水需要はさらにひっ迫し、根本的な対策として利根川を水源とする拡張事業が開始されました。四次にわたる拡張事業によって、朝霞、小作、三園、三郷の各浄水場が新設。既存の金町浄水場の増強とともに、給水所、幹線網も整備されていきました。日量17万立方メートルの施設能力でスタートした東京の近代水道は、高品質な水を安定して供給する世界有数の水道事業に発展し、現在も都民生活に欠かせないものとなっています。

## 玉川上水の清流復活と史跡指定

東京近代水道の先駆けとなった淀橋浄水場は、1965(昭和40)年3月にその機能を東村山浄水場に移し、廃止

されました。同時に長い歴史を重ねてきた玉川上水も導水路としての使命を終え、小平監視所下流の玉川上水の流れは途絶えました。しかし、都市化が進み、緑が少なくなった武蔵野台地にあって、玉川上水は身近な水と緑の空間として流域の人たちに特別な愛着を持たれていたことから、地域の人々を中心に玉川上水保全の運動が勃発。貴重な水辺空間をよみがえらせる清流復活事業が進められ、1986(昭和61)年に東京都下水道局多摩川上流水再生センターで処理された再生水が流れることとなりました。さらに1999(平成11)年3月に玉川上水が歴史環境保全地域として指定されたのをはじめ、2003(平成15)年8月には、江戸・東京の発展を支えた歴史的価値を有する土木施設・遺構として国の史跡にも指定されています。現在は、杉並区の浅間橋から福生市の平和橋までの約24キロメートルが玉川上水緑道として開園され、水と緑の空間として市民の憩いの場所となっているほか、郷土史を学ぶ貴重な場所として大切に守られています。



1. 都内最大級(直径2.9メートル)の鑄鉄管(模型・東京都水道歴史館 展示)
2. 江戸時代の木樋(木製水道管)と上水井戸(東京都水道歴史館 展示)
3. 近代水道が開通すると、複数の家庭が共同で使用する「共用栓」が各所に設置されました。また火災の消火用に「消火栓」も設けられました(東京都水道歴史館 展示)
4. 明治時代に交通・輸送手段として活躍していた馬や牛が、水を飲むために設置された「馬水槽」(複製・東京都水道歴史館 展示)
5. 昭和時代頃の淀橋浄水場。1965年に歴史に幕を下ろし、広大な浄水場の跡地は高層ビル街へと変貌を遂げています(東京都水道歴史館 デジタルアーカイブより)
6. 水流が復活し、水と緑の空間としてよみがえった玉川上水
7. 東京都奥多摩町に所在する、わが国最大級の水道専用貯水池である小河内貯水池(奥多摩湖)。その面積は東京23区の約4割に相当する26,288haにのぼる「東京の水がめ」

# 日本の水道、世界の水道。

## 世界トップクラスの水道先進都市・東京

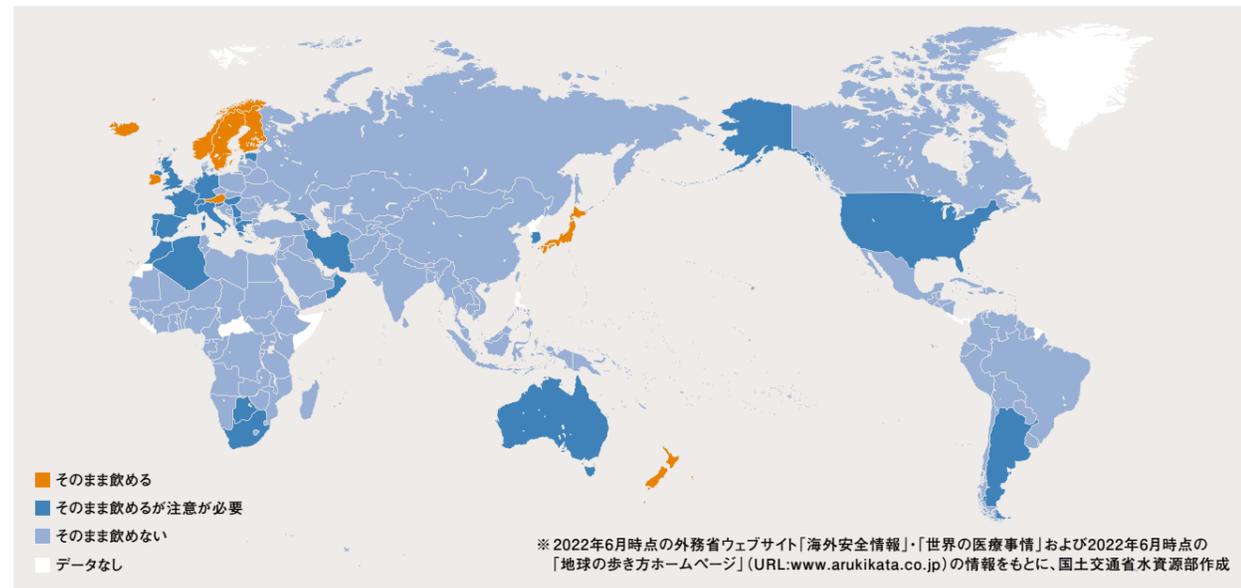
1898(明治31)年に淀橋浄水場から通水を開始し、東京の水道は2023(令和5)年で125年目を迎えます。現在の東京都の水道は、23区および多摩地区を合わせた1,239平方キロメートルの区域で、約1,367万人の都民に水を送っています。東京都の2020年度における配水量は、一日平均422万立方メートルと、ロンドン、ニューヨーク、パリなどの海外都市と比べても格段に多い水量です。水源は、ほとんどが利根川、荒川、多摩川で、その量は680万立方メートル、東京ドーム5.5杯分です。東京都では10の浄水場を管理しており、1日で約684万立方メートル、学校のプール約2万3,000杯分の水をきれいにする力があります。また、より安全でおいしい水を提供するため、厳しい管理目標を設定し、水源から給水栓に至るまで、きめ細かな水質監視のほか、浄水処理技術の調査研究なども行っています。近年、原水水質に恵まれない利根川・荒川水系では、オゾンや生物活性炭を使った「高度浄水処理」を取り入れ、通常の浄水処理では十分に対応できないカビ臭やカルキ臭の元となる物質などが除去・低減されています。東京は、飲み水の面からも、世界トップクラスの都市へと成長を続けているのです。

## 世界で水道水を飲めるのは、わずか11カ国

日本全体を見てみると、水道を利用している人は1億2,339万人、総人口の98.1%と高い普及率を実現しています。2022(令和4)年に国土交通省が発表した「2022年度版日本の水資源の現況」によると、日本のように水道水をそのまま飲むことができる国は、日本を含めてたったの11カ国、飲めても注意が必要な国が29カ国と、ごくわずかです。多くの国で水道水が飲めない要因は、国土の面積やコストにあると言われています。飲める水道水をつくるためには、水に含まれる不純物や細菌などを浄水処理する必要があり、高度な技術と莫大なコストが必要です。日本のように小さな国であればインフラ整備を進めやすいですが、大きな国では時間や費用もかかり簡単なことではありません。開発途上国では、水道自体がない国も珍しくなく、深刻な水不足に悩まされ、飲料に適さない不衛生な水源に頼るしかない人たちもいます。生きていくために必要な水だからこそ、世界的な水の問題は決して人ごとではありません。かつて家康が、水に困らないまちを想い実現したように、私たちもまた、世界中の誰もが安全な水へアクセスできる未来へ向かって、歩を進めていかなければならないでしょう。

### ■ 世界の水道水の現状

(出典:2022年度版 日本の水資源の現状(国土交通省))



### ■ 海外都市の水道との比較

(出典:東京の水道(東京都水道局))

	東京	ロンドン	ニューヨーク	パリ
給水人口 (万人)	1,362	1,010	900	218
一日平均配水量 (千m <sup>3</sup> /日)	4,222	2,600	3,785	512

※ 東京は令和2年度値  
※ 各海外都市は令和3年度の水道局の調査で各事業体ホームページ等から収集した数値



## 共同の上水井戸による江戸の暮らしと水道制度

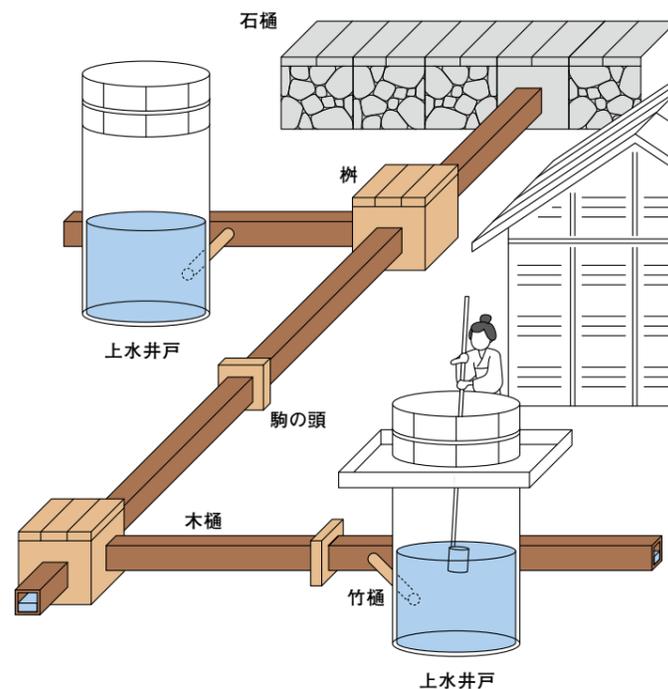
### 生活の中心となった長屋の共通井戸

神田上水、玉川上水など最盛期には6つもの上水が整備された江戸のまちでは、人々はどのように水を使用していたのでしょうか。上水の水は、土の中に埋められた木樋や石樋でできた水路で市中に運ばれて、あちこちに設置された『上水井戸』に導かれます。上水井戸は引いてきた水を溜めておく井戸で、地中深くまで円筒形の構造物が埋まっており、側面から出ている竹筒が上水の樋からつながり、溜まった水を汲み上げて使用します。この頃、江戸の町人の多くが長屋に住んでおり、長屋には共同の井戸がありました。井戸から各家庭で水を汲みあげ、みずがめ水甕か水桶に溜めて生活に利用します。上水の水は飲用であると同時に、洗濯や行水(水浴び)、釜炊き用や野菜を冷やすなど、生活用水として幅広く使われていました。要所ごとに水見枡が設置され、その蓋を取ると水の流れや汚れ具合が確認できるようにしているなど、大切に水を使っていました。

### 水道料金もしっかり徴収し、保守・管理も抜かりなし!

常に安全な水を供給するため、すでに当時から保守・管理がしっかり行われていました。保守・管理には莫大な費用がかかるため、その費用を賄うため上水利用者からさまざまな費用を徴収。現代でいう水道料金のようなものです。例えば、普請金(修理費用を武家方と町方別に徴収)、水銀(上水利用料)、水料(玉川上水沿線の村単位で徴収)などがあげられ、これ以外にも受益者からの取り立てもありました。上水の修復の費用は、武家方と町方別に組合を設けて徴収され、武家方は領地の石高、町方は所有地の表間口の間数をもとに徴収されていたのです。さらに天候や分水の影響で江戸市中への給水量が減ってしまうことを防ぐために、玉川上水では沿岸の羽村、砂川村、代田村、四谷大木戸、赤坂溜池の5カ所に水番屋が設けられ、水番人が分水の水量調整の立ち会いや上水の汚れを防ぐ見廻りなどを行い、江戸の上水を守っていたようです。

### □ 江戸時代の水道方式



### 水道の歴史をまるっと学べる 東京都水道歴史館

東京都文京区にある東京都水道歴史館は、神田上水や玉川上水などの江戸上水から、近代水道の創設、現在の水道に至るまでを実物資料や再現模型、映像資料などでわかりやすくご紹介しています。江戸長屋の再現コーナーもあるので、実物大の大きさで江戸の暮らしが体感できます!

詳しくはこちらからどうぞ  
<https://www.suidorekishi.jp/>



海外活動

## JICA「中小企業・SDGsビジネス支援事業」に採択。 浄化槽の活用でフィリピン国新排水基準達成を目指す 案件化調査を実施しています。

独立行政法人国際協力機構（JICA）が2021年12月に募集した「中小企業・SDGsビジネス支援事業」において、フジクリーンは、フィリピン国バギオ市を対象とした「新排水基準に対応した浄化槽技術による効率的かつ持続的な下水インフラ整備に関する案件化調査」を提案し、採択されました。これは、浄化槽技術を活用し、分散型排水処理システムと下水道を組み合わせた下水処理インフラの整備を実現することで、フィリピン国新排水基準の達成を目指す取り組みです。

本案件は、2022年11月から実施しており、2023年7月5日には、バギオ市において調査に関するワークショップが行われ、バギオ市長をはじめ、環境天然資源省（DENR）、保健省（DOH）の関係者、約50名が参加。分散型排水処理システムである浄化槽の有効性や優

位性、下水道との組み合わせによる効率の良い面的整備の必要性、さらに浄化槽の活用による環境影響について説明をしました。質疑応答では、衛生面における貢献度や浄化槽導入および管理の費用負担体制など多くの質問があり、高い関心と期待を感じることができました。

本調査は2023年11月に終了予定ですが、その後もAsian Development Bankと協調し、バギオ市にて浄化槽と集合下水道を組み合わせた整備計画を進めていきます。フィリピンでは、汚水処理施設の整備が十分に進んでおらず、汚水が適切に処理されないまま河川等に放流されている課題があります。フィリピンでも浄化槽技術を活用して水環境の改善に尽力していきたいと考えています。



ワークショップの様子



バギオ市長やエンジニアとの現地調査（2022年12月）

働きがい  
向上紹介  
11

## 柔軟な働き方を実現する「時間単位年休制度」

フジクリーンでは、時間単位で有給休暇を取得できる「時間単位年休制度」を取り入れています。通院や子どもの学校行事への参加、家族の介護といった社員の事情に応じて、休暇の取得に柔軟性を持たせることを目的に制定されています。もちろん、趣味などのために業務を早めに切り上げたり、あるいは休憩のために中抜けしたり、といった使い方もできます。1日や半日の有給休暇を取るほどではない、ちょっとした私用がある場合に便利な制度で、多くの社員から好評を得ています。フジクリーンでは今後も、“働きやすい”職場環境を整備していきます。



NEWS

## 日本透析医学会学術集会・総会にて、 フジクリーンが企業展示ブースに出展しました。

2023年6月16日（金）～18日（日）、兵庫県神戸市（神戸コンベンションセンター）にて「第68回日本透析医学会学術集会・総会」が開催されました。3日間で、透析医療に関わる専門職・研究者・企業の方々など、約63,000名※が参加されました。

フジクリーンは、会場内の企業展示ブースに出展し、下水排除基準値を超える透析排水の適正処理の必要性と人工透析廃水処理装置を紹介。2回目の出展となる今回は、病院敷地内等への設置イメージがしやすいよう、ブースにFJPⅡ型の実機を展示しました。設置スペースの課題を解決する最適プランをはじめ、安心して

使用していただくための充実したアフターメンテナンスについても提案しました。

透析排水が下水道管を腐食させる懸念等から、透析廃水の適切な管理と排水処理対策が急ぎ求められる昨今、医療従事者の方々の排水処理に対する関心は高く、「透析排水はどう処理したらよいか?」「装置の設置スペースはどれだけあればよいか?」というお問い合わせを多くいただきました。フジクリーンでは、今回寄せていただいたような課題を、さらに製品の改善・開発につなげていきたいと考えています。

※6月18日15時時点での運営事務局による参加登録者数速報発表より



NEWS

## 社員の健康づくりに取り組む 協会けんぽの「健康宣言」に賛同しました。

“社員が自分らしくいきいきと働くことができる会社”を目指し、フジクリーンは、健康経営の取り組みをはじめの宣言をしました。目指す会社の実現には社員の健康が不可欠であると考え、右のような取り組みを実施しています。今後も、職場環境の整備と心身の健康づくりに努めていきます。

### 健康の保持増進に関するフジクリーンの取り組み

【健康管理支援】

- 定期健康診断の受診勧奨
- 健康診断二次検査の費用補助
- 婦人科検診の費用補助
- 季節性インフルエンザ予防接種の費用補助
- ストレスチェックの実施
- 手指消毒剤の設置

【社内コミュニケーション】

- 社内報の配信
- 社内SNSの積極的な利用
- 部署横断型の業務体験制度

【働く環境の整備】

- ノー残業デーの設定
- テレワーク、時差出勤の実施
- リフレッシュ休暇の活用
- 時間単位年休制度の導入

もっと  
motto!  
広げよう

水環境をきれいに  
する取り組み

(岐阜県郡上市)  
郡上八幡 水の学校



理事・事務局長  
武藤 隆晴さん

## 郡上八幡の町と水をフィールドに、 豊かな学びと体験の場を提供していく。



川を堰き止めて行うあまごのつかみ取り

▶ 郡上八幡の  
水情報をまとめた  
「水まちBOOK」



▼ オープンキャンパスには  
関東圏からも大勢の大学生が参加



郡上おどりで知られる郡上八幡は、岐阜県のほぼ中央、周囲を山々に囲まれた盆地で、町の真ん中を吉田川が流れる自然豊かな「水の町」です。川や山水、湧水などの豊富な水源によって、町のあちこちには用水路や水屋、共同井戸などが点在し、今でも生活に利用されています。郡上八幡では、1970年代後半に大学研究者の方々の調査によってこの地域の水環境の希少性が発表されたことをきっかけに、市民が中心となって水のまちづくりに向けた取り組みが進められてきました。その先駆的な市民グループであった「さつきの会」を引き継ぐ形で、2013(平成25)年に発足されたのが「郡上八幡 水の学校」です。現在は、市民をはじめ、行政関係者、研究者など約30名の会員によって活動しています。

「水の学校」の代表的な取り組みの一つに、これまで大学や行政で行われてきた多様な調査や研究の成果・資料、文献などの集約があります。拠点であるセミナールームでこれらを管理し、情報や学びの場の提

供、大学などの調査研究の支援も行っています。また毎年7月に開催している「夏のオープンキャンパス」では、参加者である大学生が数人のグループに分かれて水環境の調査を実施。会員が案内役となって、1日で町のあちこちを巡る「疾走調査」を行い、発表会も行っています。次の日には、地元の有志グループと協力して「あまごのつかみ取り」を開催し、地域の子どもたちなど約100名もの人が集まる人気のイベントとなっています。他にも、主に水分野やまちづくりに関わる企業、団体、研究機関の方々を対象とした「水路カラクリ探訪」を開催。郡上八幡の水環境の仕組みを解き明かしながら普段は見られない水場を散策し、生活に根付いた水文化を体感することができます。

今後の目標は、この地に残る貴重な水環境を若い世代に使ってもらうための新しい利用法や価値を見つけていくこと。水に関するあらゆる相談や課題に応える“水の窓口”としての役割を担いながら、新しい「水のまち」の創造を目指していきます。

美しい水を守る  
**フジグリーン工業株式会社**

本社 名古屋市千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

札幌支店 (011)738-5075	宇都宮営業所 (028)625-4650	三重営業所 (059)213-5520	宮崎営業所 (0985)32-3064
東北支店 (022)212-3339	群馬営業所 (027)327-5611	和歌山営業所 (073)422-3634	鹿児島営業所 (099)257-3501
東京支店 (03)3288-4511	埼玉営業所 (048)660-5050	広島営業所 (082)843-3315	沖縄営業所 (098)862-9533
名古屋支店 (052)249-5100	千葉営業所 (043)206-5171	高松営業所 (087)869-8680	
大阪支店 (06)6396-6166	新潟営業所 (025)271-8668	松山営業所 (089)967-6123	
福岡支店 (092)441-0222	山梨営業所 (055)275-9300	高知営業所 (088)803-1520	
盛岡営業所 (019)604-2527	松本営業所 (0263)27-2080	佐賀営業所 (0952)31-9151	
郡山営業所 (024)937-0800	岐阜営業所 (058)271-1131	熊本営業所 (096)388-3571	
茨城営業所 (029)851-0031	静岡営業所 (054)286-4145	大分営業所 (097)558-5135	



発行 2023年10月1日  
フジグリーン工業株式会社「水の話」編集室